

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1112号
2009年2月22日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

◇2月の代禱・信施奉献先
▽「信教の自由」を抑圧されて
いる人々のため(2月11日に近
い主日)▽ハンセン病問題啓発
の日(大齋節前主日の1週前15
日)▽ぶどうのいえのため▽葛
飾学園(サンピエール・保育
園)のため▽浦安伝道所・浦安
宣教のため▽平和を実現するキ
リスト者ネットの働きのため▽
聖公会平和ネットワークのため

◇堅信受領
2月1日 聖愛教会
▽川窪利治(聖愛)

▽聖公会神学院卒業礼拝 3
月7日(土) 14時、同院諸聖徒
礼拝で行われる(説教者 伊挽地
茂男専任教員)。東京教区塚田
重太郎聖職候補生ら卒業・修了

今週・来週の予定

2月22日~3月7日

- 22(日) 大齋節前主日
- 24(火) 銀座朝祷会
- 25(水) 大齋始日・灰の水曜日
下町G始日礼拝 (聖ヨハネ)
- 26(木) 信仰と生活委員会
港区芝公園委員会 (聖アンデレ)
- 28(土) 礼拝音楽委員会: 委員
研修会 (阿佐谷)
- 3月
- 1(日) 大齋節第1主日
- 2(月) エルサレム教区協働委
員会
- 3(火) 外濠G牧師協議会
(聖バルナバ)
- 5(木) 下町G牧師協議会
(聖ルカ)
- 6(金) 世界祈祷日礼拝
(聖パウロ)
- 7(土) 聖公会神学院卒業礼拝
(神学院)

者4人が東京・横浜・京都・九
州各教区へと巣立っていく。
▽いざや会 旧約聖書を読む
会として長年、親しまれてきた
が今回から、「旧約聖書からの視
点を大切にしながら『マタイに
よる福音書』を読み始めること
に:」なり、参加呼び掛けして
いる。太田博之(聖マルチン教
会信徒)・小林進司祭(横浜・
林間聖バルナバ教会)の共同企
画進行。2月26日(毎月第4木
曜)19時~20時半、聖オルバン
教会。照会皿03(6789)0
745・企画人。
▽聖路加国際病院礼拝堂オル
ガンコンサート&夕の祈り 3
月4日(水) 18時半、19時に
それぞれ。Or古澤啓子。入場無
料(会場献金)。

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

私は、来年3月には定年となりま

す。司祭に叙任されて8年、聖職を志
願して15年になりました。この間、教
区には、私の事情にご配慮いただき、
一貫して、練馬聖ガブリエル教会に勤
務させていただきました。この教会に
転籍してからは23年
が経ちました。

共に生きる喜び

その頃生まれれた子
どもたちが、続々と
成人になって行きま
す。今年、例年にな
く多い8人が成人式
を迎えました。晴れ

司祭 広澤敏明

着姿で、祭壇の前で家族との記念写真
を撮る笑顔はまばゆいくらいです。教
会の中から子どもの姿が次第に少なく
なっていました。一昨年は6人の赤
ちゃんが恵まれました。その子たち
が、今、教会の中を運動場のように駆

け回り始めました。

1月1日は、新年礼拝の中で、あるご夫
妻の結婚を祝福しました。夫人は足を悪く
され車椅子でした。教会で、本当によくご
奉仕いただいたことを思い、涙がにじみま
した。昨年は、この教会としては多い、10
人の方が天に召されまし
た。お一人お一人とご家族
との交わりの中で、人
にとって本当に大切なこと
を沢山学ばせていただき
ました。

信徒の皆さま、お一人
お一人の人生の大切な一

齣一齣に、その傍に居させていただけたこ
と、司祭冥利に尽きる思いがしています。
人生の後半に、このような素晴らしい恵み
が用意されているとは思ってもいませんで
した。ただ感謝。
(練馬聖ガブリエル教会協力司祭)

常置委員会報告(2月13日)
 ＊主教報告Ⅱ小笠原聖ジョージ教会巡回(2月4日～9日)報告、主教会(10日～12日・沖縄)報告。

＊第108(定期)教区会関連討議Ⅱ予定義案、議案書發送予定日確認、教区監事指名、財務主事08年度決算書類の報告。

＊09年4月1日付教役者人事の継続審議。

＊信徒奉事者向け研修提案があり検討を進めることを協議。

(書記Ⅱ松田)

▽世界祈祷日礼拝 日本キリスト教協議会(NCC)女性委員会主催で3月6日(金)13時半、聖パウロ教会で。今年も聖公会も担当している関係もあって会

場のほか説教者に神崎和子司祭(聖アグネス教会)を迎えている。今回の祈祷日テーマは「わたしたちは多くいても、キリストにおいて一つの体です」(ペテロ二書)。照会Ⅲ03(3203)0372ⅡNCC気付。

▽大齋克己献金 毎年、「大齋節に祈りささげよう」と日本聖公会管区事務所呼び掛けている献金で、今年目標額は2250万円。内、国内宣教強化のためにささげられる働きは中部教区プロジェクト「可児・美濃加茂ミッション」。岐阜県の両地域周辺で行われているフライピン人信徒たちの生活を支え、聖公会の教会がないところでの働きの拠点づくりなどに

活用される。

▽八王子復活教会土曜シネマクラブ2月・3月 「男はつらいよ」シリーズから「寅次郎わすれな草」わたしの寅さん」編をそれぞれ鑑賞。いずれも28日(土)13時半。無料。照会Ⅲ042(642)6105。

【大齋節公開プログラム】2

＊主日の場合は、礼拝中および礼拝に引き続いてのプログラムは割愛、午後開催のみ掲載。▽聖十字教会、DVD上映とお話の会Ⅱ3月1日(日)13時半、「風とどまる」を鑑賞し施設(自立援助ホーム・憩いの家)関係者から話を聞く。＊各教会宛に配布中の「大齋節中のプログラム一覧」(信仰と生活委員会編)参照。

【クローズアップ】6

教会の将来計画

アンケートと意見交換会から②

去る1月24日(土)、27教会から51人の方のご参加を得て、将来計画担当者の意見交換会を開催いたしました。

意見交換会では、最初に東京聖マリア教会、三光教会、東京諸聖徒教会の将来計画の例を紹介していただきました。規模的に小さい教会、大きい教会、そして中くらいの教会の代表です。

大きな教会は財政的に安定していて楽だと思われがちですが、現状をシビアにとらえているのはむしろ大きな教会の方です。そして、教区費分担金の重圧に苦しんでいることは規模の大小に関わりがありません(ア

ンケートに分担金のことを記した教会は多くありませんでしたが。現在の教区費分担金の算出方法のもとで、大きな教会は小さな教会の分まで負担している、そのこと自体に不満があるわけではありません。不満があるとすれば、財政的にサポートされている小さな教会の、現状分析と将来に向けての計画的な取り組みが必ずしも十分ではないことにあります。しかも、大きな教会の財政的な負担が限界に近づきつつあるのです。

他方、小さい教会は現状の維持に追われて、分析や将来に向けての取り組みどころではなく、教会ががちです。しかし、すべての教会がそうでないことは、東京聖マリア教会の例が示している

通りです。

意見交換ではさまざまな意見が出されました。その中には、宣教方法に関する提案があり、また教会間の協働や再配置、教区財政に関する組織論的な意見もありました。時間的な制約もあって議論がかみ合うところまでは行きませんでした。が、教区・教会の将来に多くの方が危機感を抱き、真剣に考えようとしていることはわかりました。

これを受けて、教区企画室では秋に2回目の意見交換会を計画しています。詳細は未定ですが、分科会方式をとって、十分に意見交換をできる場にしたいたいと考えています。

教区企画室座長

古谷野 亘